



在京関中一高会 会報



結成60周年記念号。今年の総会は6月21日です！

結成60周年 新たな飛躍に向かって

在京関中一高会会長 伊藤 東平 (昭和37-61回卒)



在京関中一高会会員の皆様、ご健勝にお
過ごしのこととお慶び申し上げます。

今年は本会も60周年を迎えることとなり
ました。この記念すべき年の総会も、母校
校長坂本晋先生・横山泉先生・本部同窓会
会長佐藤悦郎様のご出席を頂き、多くの会
員の皆様とともに催すはこびとなりました。
改めて申し上げるまでもなく、本会は母校
硬式野球部が春の選抜全国高等学校野球大
会へ、東北勢として初めて出場を叶えたの
を機に、野球応援の気運の高まりとともに

結成されたものであります。爾来、母校や本部同窓会のご支援はも
とより、歴代の会長をはじめとする役員の方々と会員各位の母校愛
を支えられて連綿と続き、現在2,300余名を数える会員のもと60周年
を迎えることが出来ました。

関係各位のご支援とご協力に感謝申し上げます。ごぞいます。

本会は首都圏在住の同窓生が郷里への思いに浸たれる心のオアシ
スとして、又、世代を越えた同窓生の交流の場として、時には情報
交換の場としての役割を担い発展、拡大してまいりました。

近年は、各界で活躍されている同窓生の方々に講師をお願いして、
タイムリーな話題やグローバルなテーマについて、専門家の目を通
した事象解説を頂いており、会員のポテンシャルの維持・向上に役
立てております。

私達は郷里を後に、勇躍、首都圏へと羽ばたいてまいりました。
しかし、「遂げずばやまじ」の意気が時として消沈し、「遂げるべき
志」を見失いかけることがあります。そのような時、在京関中一高
会の諸先輩の警咳が見失いかけた志を取り戻す一助となり、新たな
飛躍へと繋がってまいりました。私達の在京関中一高会は、そうい
う会であり続けたいと思っております。

60周年を迎えた今日、私達は諸先輩の教えに学ぶとともに、新し
く迎える若い会員の皆様が、これまでの60年を飛躍の台として、新
たな60年に向けて羽ばたき、新たな歴史を創る第一歩の日になるこ
とを願ってやみません。

東京支部 結成60年の歴史

一心からお祝いを申し上げます—

一関一高同窓会会長 佐藤 悦郎 (昭和21-45回卒)



此の度の東京支部、60年の歩みは、燦然
たる歴史の創世であり、この慶祝に当たり
心からお喜びを申し上げます。

歴代の支部会長さんをはじめ役員の皆様方
の並々ならぬ運営努力の賜物と存じ、ここ
に厚く御礼申し上げますと共に、この60年
の慶事を東京支部同窓生の皆さんと共に
お祝いできますことを大変光栄に存じます。

この節目を大きな基盤として、今後益々
の御発展を祈念申し上げましてお祝いと致
します。

3月1日の母校の卒業式は、附属中出身生徒の初の高校卒業の門出
でもありました。御承知の通り、県内ただ一校の県立附属中併設高
校として、教育界はもちろん、地域社会から常に注目の的となっ
ている母校であります。附属中開設から6年間、その併設校の長所
を伸長しつつ貴重な実績を積み重ねて、晴れの卒業となりました。
そして当日、卒業生231名全員同窓会の正会員としてお迎えする
ことが出来ました。

今迄在校生諸君には、折ある毎に一関一高の同窓会組織についてお話
し申し上げて参りましたが、皆さんに差し上げている同窓会誌も、
在校生全員に配布しております。いずれ若い同窓生が支部総会に出
席の常連になることを願って対処を進めて参りたいと存じます。

年度末教職員の移動は、定時制副校長の平田修先生の黒沢尻工業
高校の副校長に転任をはじめ22名の転勤・退任の方々お送り申し上
げました。4月7日は、新しい教職員の方々の歓迎会を開催、一高で
の御活躍を期待申し上げたいと存じます。

母校と同窓会の報告の一端を申し上げ、今後一層の同窓会運営に
御配慮を頂きますことをお願い申し上げ御挨拶と致します。

ごあいさつ

一関一高 校長 坂本 晋



磐井川に集っていた白鳥たちもいつの間
に旅立ちを終え、遠く須川岳のかけも和らぐ
一関の春を迎えております。

在京関中一高会の皆さまにはご清栄のこと
と存じます。この度は結成60周年おめで
とうございます。昨年は総会にお招きをいた
だきましたことに御礼申し上げます。皆さま
から近況報告いただいたり往時の思い出に
花を咲かせるなど楽しいひとときを過ごさ
せていただきました。

皆さんがお元気で、各界を舞台にまた社会の最先端でご活躍して
いらっしゃるというのが、在校生には大きな励ましとなっています。
昨年度は本校が公立併設型中高一貫校として初の卒業生を出すとい
う節目にあたる年でした。内外から「修文練武」の花を大きく咲か
せることが期待されたわけですが、在校生諸君は「遂げずばやまじ」
の精神を発揮し、大いに一関一高の存在感を高めてくれました。

「武」においては、歌留多部・囲碁将棋部が全国高総文祭出場、

英語ディベート競技でも東北代表として全国大会に出場、水泳部は
インターハイ男子自由形で銅メダルに輝きました。家庭クラブは全
国高校家庭クラブ研究発表大会で「ともに生きる社会を目指して」
と題して復興支援活動を発表し文部科学大臣賞を受賞、ソフトボ
ール部は8年越しの夢を叶え春の全国選抜大会に出場を果たしま
した。「文」においても、今春の大学入試実績では、県下で二番目に
創設された歴史と伝統にふさわしい成果を上げることが出来ました。
また、附属中学校では、各種作文コンクールや読書感想文コン
クール、英語弁論大会など様々な分野で多くの生徒諸君が最優秀賞
を含む栄誉に輝いています。

3年前、附属中学校と各地域の中学校という二つの川が合流し一
体となって奔流のごとく流れ始めた大河が新生関高でした。優れた
資質に恵まれた者同士が、互いに個性を競い合い刺激し合うことで、
ダイナミックな相乗効果を生み出していく。生徒諸君はその使命を
担い、身をもって伝来の校訓である「切磋琢磨」に新たな息吹を吹
き込んでくれたと思います。

古き良き伝統と、新時代の魁となる学校としての若々しい可能性
が一つとなった「温故知新」が新たな胎動を始めています。今後と
も師弟一体となり名実ともに魅力ある関高として参りますので、在
京関中一高会の皆さまにはご指導とご鞭撻をお願いします。

結成60周年特集

も
く
じ

- ・歴代会長一覧／挨拶：第5・6代会長
- ・本会の沿革
- ・講師一覧表
- ・平成26年総会、講演、懇親会写真
- ・同期会、会員、部OB会、事務局
- ・名刺広告（別紙）

歴代会長

1代（昭30—昭48）	遠藤後一（12回・大2）	郵政省
2代（昭48—昭60）	山田 晟（24回・大14）	東大教授
3代（昭60—平7）	阿部次郎（32回・昭8）	新聞社
4代（平7—平8）	佐藤義行（47回・昭23）	弁護士
5代（平9—平17）	佐藤健男（47回・昭23）	公認会計士
6代（平17—平25）	柳澤 惇（56回・昭32）	鉄鋼会社
7代（平25—）	伊藤東平（61回・昭37）	建設会社

建学の精神を忘れずに

第5代会長 佐藤 健男

在京関中一高会が結成60周年を迎えられたのは、歴代会長のお蔭と会員のご協力のお蔭であることは論を待ちません。私は五代目の会長を引き受けて、在京募金委員会委員長も継続しておりましたので、在京の各同級会開催情報を集めて募金に奔走しました。そこで卒業生の情熱、底力、母校愛をトックリ教えられました。そして母校創立百周年記念・平成10年度総会を平成10年6月14日に開催し、162名の出席者に目標額の11,000千円を超えて11,368千円を達成したことを報告し御礼を述べて真礼しました。

記念講演には恩師大島英介先生にお願いし、テーマは「大槻文彦『一関尋常中学校落成式賀章』解説」についてお話し頂きました。

「明治31年10月1日に一関一高の前身一関尋常中学校の新校舎工事落成式典が盛大に挙行され、開校されました。この式典に寄せられた大槻文彦先生のお祝いの言葉である『賀章』には校舎落成と開校に当たっての単なるお祝いの言葉だけではなく、

郷土の後輩達への厳しい戒めの気持ちが含まれております。先生の教育に対する並々ならぬ情熱と、郷土への深い愛情が溢れております。この地方の山水自然は『古今依然』として美しい。昔から多くの人材を輩出していたのに、今は『人材のみ独り古（いにしえ）の如くならず』とは一体どうしたことなのであろうか。そして内的教育について、第一は自然環境の美しさであり、第二に学校における教育であり、第三に家庭の教育を挙げておりました。」と。

大島先生は最後に次のことをあのミミヅクの異名をもつ目に涙を湛えつつお話になりました。

「大槻文彦先生の『賀章』の心として、先生が祖父から言い伝えられてきた次の戒語（戒めの言葉）を述べられました。『およそ事業は、みだりに興すことあるべからず。思いさだめて興すことあらば、遂げずばやまじの精神なかるべからず』と。私はここで、母校が百有余年の歴史と伝統を守り、私達が結成60周年を、恙無く迎えられたのは、母校の創立の理念が『賀章』によって方向性が明確に示されたことによるものと確信いたしました。これからは、母校創立の理念を受け継ぎ、しっかりと後世に語り継いでいきたいと考えております。

春の選抜の応援に参加して

第6代会長 柳澤 惇



わが母校は平成16年「第76回全国選抜高校野球大会」に、21世紀枠文武両道優良校で選ばれ、49年ぶりに、春の甲子園出場という栄誉によくした。

我在京関中一高会も歡喜に沸き立った。会として応援団長に青木賢一副会長を押し立て、160名の応募者を乗せ、新宿駅からバス4台で甲子園に向かった。バスが発するやいなや、早速に応援合戦が始まった。

途中、高速道のSAに立ち寄ったところ、偶然にも野球部員の父兄達を乗せたバスに会い、健闘を祈念してエールを交換した。又、別のSAでは、東海地方の同窓生を乗せたバスにも会った。ここ迄来ると、やゝ疲れが出たがようだが、吹田SAで朝食、休憩を取り、甲子園が近づいて英気を養った。

さて、3月24日いよいよ甲子園到着。在京関中一高会で500名近くの会員のチケット申込みがあったが、野球部の応援に、かくも多勢の人が集まってくることは驚きであった。入場してスタンドに陣取ると、芝生の緑が目染みした。スタンド上段には、

元監督の伊藤雄三氏（昭22年卒）、小野寺正芳氏（昭25年卒、主将で4番打者）の野球部の大御所二人が、「よくぞ後輩達よ、俺たちを甲子園に連れてきてくれたなァ」の思いで、にこやかに応援していた。

試合の方は、千葉の拓大紅陵に、0対6で敗れたが、木村投手は145キロの球速で三振8個を奪ったものの、守備の乱れと散発5安打で木村を援護できなかった。試合終了後、スタンドを後にする時、佐々木政蔵氏（昭31年卒、30年に甲子園に出場、県下一の好打者）が、「俺たちと同じ事をして負けたなァ」と呟くのが聞こえた。

しかし、4,500名の大応援団で、弊衣破帽で、今時の他校のチアガールを圧倒する応援ぶり、「センバツ応援団優秀賞」に輝いた。

帰途、大阪・箕面温泉、スパガーデンで入浴、夕食で疲れを取った後、又々、応援合戦になり、特に女子生徒（現役？）の見事な「豪気節」の乱舞は拍手喝采だった。

甲子園のおかげで、母校への思い同窓生の連帯感を、より強



在京関中一高会の沿革

(資料：本会旧名簿、会報、本部同窓会誌)

1. 関中同窓会東京支部時代

旧制一関中学(現一関一高)は、校歌にあるように、明治31年10月1日の開校である。明治35年に第1回卒業生15名を送って以来、明治の年代は毎回50名前後の卒業生を輩出した。

明治41年に初代の渡邊穰校長が退職して上京した折、同窓生22名が参集して「関中同窓会東京支部」の会合をもたれている。これが現在の「在京関中一高会」の嚆矢とってよからう。

大正2年11月16日に、「関中同窓会東京支部」大会が牛込の三河屋において開催されたと母校の記録に残っている。また大正5年8月の「第2回全国中等学校野球大会」(豊中球場)に東北代表となり、同時に野球部後援会が誕生したとある。当大会結果は、第2回戦で地元の雄市岡中と対戦し、0対8で大敗。この頃は後援会の応援もあって関中野球部の黄金時代であった。同7年「第4回全国大会」(鳴尾球場)に出場するも、開会式の3日前に起きた米騒動のため大会は中止。この年関中は全国優勝候補に挙げられていただけに残念な結果に終わった。そして同9年の「第6回全国大会」には三度目の代表となる。会場は、第7回大会同様鳴尾球場。東北大会の勢いのまま第1回戦大阪明星商と対戦するも2対6で惜敗を喫す。因みに、野球部歌に「鳴尾の原の空遠く、驍名馳せし…」とある鳴尾とはここ鳴尾球場のことである。

昭和11年11月、第1回生の阿部美樹志が母校で講演を行っているほか、軍事色が濃くなるに従って卒業生の陸海軍人による母校での講演が頻繁に行われるようになっていった。昭和年代の東京の同窓会活動は、この頃から戦時体制が進み、終戦を迎える間の状況は詳らかでない。

終戦翌年の昭和21年には野球部が復活。同時に戦時以来中断していた「全国大会」が再開された。未だ用具など不備ながら3ヵ月間の練習を経て県予選突破、続く奥州大会では再び盛岡中と決戦対決し(3対2)、堂々の栄冠を手「第28回全国中等学校野球大会」(西宮球場)に出場。全国大会では2回戦に駒を進めるも強豪鹿児島商に4対11で苦杯を嘗めた。当時はまだ食糧難な時代でもあったため、東京では、伊東貞四郎(3回)ら数名が集まって、ささやかな歓送をしたに止まった。

昭和29年秋、「東北地区高校野球大会」に出場した一関一高は強豪福島、山形の各校を破って見事優勝。翌30年春の「第27回全国選抜高校野球大会」に出場できるようにと運動を開始。これら運動が功を奏し翌年2月、母校に選抜出場決定の報せがもたらされた。まさに東北から初の出場校の栄誉を得た。これぞ快挙なり。戦果は2回戦で地元尼崎高に反攻の機逸し0-5で敗退する。

2. "センバツ"の寄付集めが本会の創立へ

昭和30年の選抜出場決定に伴い、早速支援募金に着手することになった。東京では、既に活発な同郷活動を続けていた「磐井郷友会」の存在が幸いした。(この会は、明治29年、三陸大津波のとき、東磐井、西磐井両郡出身者の東京在住者が集まって義捐金を集めたときに組織された会であるが、平成8年、実に100年にわたる歴史をもって「一関ふるさと会」に継承された)。

この「磐井郷友会」には、副会長に伊東貞四郎をはじめ、役員約半数が関中出身者で占められていたので、この名簿を基に寄付依頼が行われた。この寄付集めのあと、昭和32年、新橋の日本食堂で20名ほどが集まった。このときはまだ「関中同窓会東京支部」であったが、これがまさに今日の「在京関中一高会」結成の萌芽といえる会合だった。

3. 遠藤後一会長時代

戦後、「関中同窓会東京支部」には復興院総裁であった1回生の阿部美樹志を名誉会長に、郵政省の局長からNHKの経営委員だった遠藤後一を会長、副会長に畠中大輔(18回)、千田章(49回)、顧問には浅利三朗、麓肅、上野芳男、渡辺喜三郎(11回)、佐藤富治、佐藤欽一、志賀健次郎、永沢滋などが名を連ねた。総会は、芝大門の郵政会館で行うことを恒例とし、前述の「磐井郷友会」とメンバーが重複する関係もあって、「関中同窓会東京支部」と「磐井郷友会」とが交互に一年おきに開催するようになった。

遠藤会長時代には、母校の昭和35年6月の二度にわたる火災に、全会員に罹災復興資金集めの協力を呼びかた。同時に図書館充実のための募金も行われ、それぞれの募金を母校へ贈呈した。

4. 山田晟会長時代

昭和46年頃には遠藤後一会長の病気による会長辞退により、2年間総会が開かれなかった。

その後、昭和48年「再建総会」と銘打って開催された会において24回生の東大法学部教授・山田晟の会長就任を得ることが出来た。副会長も菅原新佐(30回)から増田盛(30回)、佐藤義行(47回)と若返り、また女性副会長も、岸佳子(53回)から和賀斐奈子(56回)、菅原多智子(60回)へとバトンタッチする一方、阿部次郎幹事長のもとに佐藤健男(47回)、青木賢一(49回)の副幹事長を初め卒業回数別の幹事団を充実して会員名簿には1,300名の会員が登録されるようになった。

特に遠藤会長のときは阿部幹事長の自宅に置いていた事務所を昭和50年10月から、佐藤健男副幹事長の事務所(千代田区六番町7山啓ビル)に移転し、事務処理体制を充実したことは、本会にとって特筆すべき発展であった。

また山田会長の方針で、総会と役員総会を毎年交互に開くこととし、平成7年の本会結成40周年総会まで続いた。

昭和53年には、母校の創立80周年記念事業として同窓会本部が実施した第2グラウンド建設募金があり、本会より969万円の献金がなされた。

「在京関中一高会」の名称

昭和30年日本食堂(新橋)で関中同窓会が開かれた際、一関一高になってからの卒業生が社会に輩出されるようになったことが議題になった。「関中は関中会、一高は一高会でやってもらえばよい」という意見があったが、幹事の阿部次郎は「関中と一高を分けると、関中会はあと20年か30年で消滅することになるが、これもさびしく感じないか。歴史と伝統を何とか後世に伝えてゆくようにしたい」と発言した。これが入れられて、本会の名称が「在京関中一高会」と決まり、結成は選抜の寄付集めをした昭和30年に遡ることとし、会長に遠藤後一、幹事長に阿部次郎が選出された。



昭和56年度総会は、法曹会館（千代田区霞ヶ関）にて開催。山田晟会長と、副会長には増田盛、佐藤義行、岸佳子が再任された。女性会員の参加も目立ち、総勢100余名に上る盛会であった。

昭和58年度総会は参加者は54回30名、56回20名等計200名に達し、急遽会場を新宿歌舞伎町「大黒庵」に変更して開催。夫婦会員、兄妹会員に記念品が贈られた。

5. 在京関中一高会結成30周年記念総会で阿部次郎新会長選出

昭和60年6月30日、本会の結成30周年記念総会で、高齢を理由に辞任を表明された山田晟会長に代わり、新会長に阿部次郎が、また、幹事長に佐藤健男が選出された。なお、当記念総会を機に「母校を甲子園へ」を合言葉に募った野球部応援寄付金は115万円が集まり、総会席上、母校千葉宣夫校長に献上された。

阿部新会長はさらに、副会長に黒澤功記（57回）、副幹事長に菅原光郎（54回）、三浦清豪（59回）を加え、評議員については56回卒業生まで拡大し、各卒業回数別の幹事についても充実をはかった。出席150名。

昭和62年6月14日の総会で阿部会長が再選される。阿部会長は、翌63年10月1日に迎える母校創立90周年記念事業に会をあげて取り組むことを提案、承認された。出席130名。

昭和63年度役員総会は、6月19日半蔵門会館で開催。52名出席。講演を作家・内海隆一郎（55回）にお願いして「私が描いた人物・中尊寺僧」と題して講演。この後、役員総会、総会で講演が定番になった。（表参照）10月1日の本部総会並びに母校創立90周年記念式典に阿部会長をはじめ本会から多数参加合流することにした。これら行事には32回生が地元で同期会を開催、参加している。また、本会からは当記念事業募金額426万円を贈呈した。

平成元年の総会は6月18日、東海大学交友会館（千代田区霞ヶ関ビル33階）で開催された。出席者114名。本年度役員改正の件では阿部次郎会長以下全役員が再選された。平成2年の役員総会は6月24日、東海大学交友会館で開かれた。会務報告の中で、この春母校野球部が関東地区で練習試合を行うための支援募金に依り、野球部へ30万円を寄付した旨報告があった。以後、関東地区遠征には本会から毎年激励の寄付をしている。

6. 平成3年度総会には180名が参加

平成3年度総会は6月18日、ここ数年恒例となっている東海大学交友会館で開催。本会に55回生が同級会（40名出席）を兼ね

ての参加もあって、180名の出席をみる盛況だった。

女性副会長に赤塚百合子（54回）が新任されたほか、その他役員は阿部次郎会長以下再選された。なお会の事務局が、黒澤事務所方（中野区中野）に移され、これまで15年にわたって事務局を担当した佐藤健男幹事長には感謝決議がなされた。記念講演は、衆議院議員・菅原喜重郎（44回B）の「内外の諸情勢について」。また、阿部次郎著『首都圏で活躍した郷土の先輩達』が参加者に贈呈された。

平成4年は役員総会の年、6月14日60名出席で、東海大学交友会館（霞ヶ関ビル）で開催した。恒例の記念講演には、毎日新聞社制作局長菅原亮（54回）、「いま新聞はこうにして作られている」と題して講演。

平成5年総会は6月13日、恒例の東海大学交友会館で113名出席で開催、阿部次郎会長は「母校100周年に向けて役員の実力を高めたい」と提案され、顧問に従前からの佐藤欽一、山田晟、志賀健次郎のほか千葉保之（14回）、永沢勝雄（27回）、佐藤重平（27回）の4氏を新任、また副会長に佐藤義行、佐藤健男、黒澤功記、赤塚百合子、幹事長に青木賢一、幹事、評議員陣も増強した。記念講演は劇団民芸・伊藤孝雄（54回）が「混迷をたどり……」と題して、一風異なる演劇界の実情を語られた。

平成6年は役員総会は6月26日、69名出席。初めての会場スクワール麹町（千代田区麹町）で開催。

また、山田晟顧問が、ドイツ連邦共和国から「ドイツ連邦共和国功労勲章一等功労十字章」を授与された栄誉に対し、本会から記念品が贈呈された。

記念講演は、関東労災病院精神科部長・佐々木時雄（53回）が「精神科医の抱く人間観」と題し、健常者と障害者の人間模様を話された。

7. 本会結成40周年記念総会で新会長に佐藤義行

平成7年は本会結成40周年記念（昭和30年結成）に当たり、総会は6月18日、日本教育会館（千代田区一ツ橋）にて開催。参加者169名（うち女性30名）。

冒頭、阿部次郎会長から自身が本会創立時から幹事長、最後の10年間は会長として携った本会40年間の歴史を語って挨拶とし、辞任の意を表した。そして顧問団の一致した推挙により佐藤義行が新会長に全会一致で承認された。次いで、佐藤新会長からは顧問、副会長、幹事長、幹事、評議員等の役員が指名され承認された。また、阿部前会長の退任に伴い多年のご尽力に感謝し記念品が贈呈された。

続いて、3年後に迫った母校創立100周年記念事業に関し、千葉豊記念事業準備委員長よりその具体的内容が示され、東京支部への特別な期待が寄せられた。

記念講演は直木賞作家・三好京三(49回)が「平泉・藤原四代を支えた女たち」と題し、従来語られたことのない藤原時代女性の一面についてユーモアを交えて語り深い感銘を与えた。母校創立100周年記念事業に応じて、平成8年3月「在京募金委員会」(委員長佐藤健男、委員は副会長以下全役員)が発足。本会募金目標額を1,100万円とし、来る総会に諮ることとした。

8. 佐藤義行会長から佐藤健男会長へ

平成8年度総会は6月9日、スクワール麹町(千代田区麹町)に123名の参加者を迎え開催。佐藤義行会長は母校創立100周年記念事業に向け会員に募金協力を要請する。目標額1,100万円案及び活動実施を翌7月からすることが満場一致で可決された。この年以降役員総会を止め、毎年総会開催。

記念講演は、元エチオピア大使、前ネパール国王特命全権大使の伊藤忠一(50回)が「開発途上国が欠ける諸問題」をとりあげ、外交の難しい実情を認識させた。

また、佐藤義行会長がこの頃から体調を崩されていて、遂に辞任届が出された。急遽役員会を開催(同年8月2日)、これを受理。会則第2条により佐藤健男副会長を残任期間の「会長代理」とすることに決定、即日全会員に通知した。

平成9年度総会は、6月22日、スクワール麹町にて開催。113名が参加する。総会には一関市長佐々木一郎(51回)を特別会員としてお招きした。

議事・役員改選の件では空席となっていた会長に佐藤健男会長代理が改めて選任され、佐藤義行前会長は顧問に推戴された。幹事長に黒澤功記が就任。そして、本年度は趣を変え、ソプラノ歌手・林 勝子(62回)「ソプラノリサイタル」が催された。日本歌曲やオペラ「椿姫」の"乾杯の歌"などが披露され、しばしの間芸術深く音楽の世界に聴き入った。

9. 平成10年度総会で母校創立100周年を寿ぐ

平成10年度総会は、母校創立100周年記念と銘打って6月14日、ホテル海洋(新大久保)にて開催(参加者166名)。佐藤健男会長より平成8年7月以来の記念募金は在京会員一同の活動により目標額を超えて達成(1,136万円 募金者516名)できた旨の報告と感謝の意が表された。そして、10月1日開催の母校創立100周年記念式典への参加を呼びかけられた。

記念講演は、恩師・大島英介先生の「大槻文彦『一関尋常中学校落成式賀章』解説」。いま百年を経てなお光彩を放つ先人の言葉に一同大きな感銘を受けた。なお、本講演資料として当会が復刻出版した「ふるさと若人へー賀章のこころー(大槻文彦『一関尋常中学校落成式賀章』解説)」大島英介著を参加者に配布された。また、母校創立100周年記念事業用として1,000部を母校及び記念事業協賛会へ寄贈した。

平成11年総会は6月13日、日本教育会館で134名出席で開催。佐藤健男会長以下役員は再選。講演は初の女性講師、小野寺麻利子(72回)の「アサヒビール大逆転」。平成12年総会は6月4日、同会館に96名出席で開催。平成13年6月24日の総会では、120名出席。佐藤健男会長が再選。副会長に、和賀斐奈子が2度目の選出。幹事長に清野翼(58回)が新たに選出。

平成14年総会は6月16日豊島区南大塚のホテルベルクラシック東京に会場を変更。豊島区と一関市が「災害時応援協定」を結んだ縁で、その後この会場で開催。出席149名。

平成15年総会は、105名の出席。「現在の名称を本部の会則に合わせる方向で検討したい」と役員会が提案、検討委員会が設置された。

平成16年1月30日、第76回選抜高校野球大会に、母校野球部が「21世紀枠」での出場決定。3月24日の試合には、本会からバス応援、新幹線組を含め500名の動員。(別項参照)。同年6月6日の平成16年度総会は、118名の出席。野球部OBで監督をやられた及川武宣(57回)が「一関一高野球部百四年史」と題して講演。懇親会では、佐藤則源(62回)のリードで、甲子園のアルプススタンドの再現。また、藤原歌劇団ソプラノ歌手、宇田川(佐藤)恵利(86回)が初参加、美声で魅了。この後も毎回出席されている。

また、名称検討委員会の答申があり「歴史と伝統のある「在京関中一高会」を関中出身者が参加している以上続けるべき」として承認された。

10. 結成50周年記念総会で柳澤惇会長就任

平成17年6月12日、本会結成50周年記念総会が出席125名で開催。新会長に柳澤惇(56回)が選出され、他の役員は留任。少しずつ、より若い年次の会員の参加を実現したいと挨拶。席上本会結成以来、幹事長、会長を歴任された阿部次郎顧問に感謝状と金一封が送られた。

平成18年は、6月25日は124名の出席で開催。柳澤会長の若い世代を開拓しようという方針で講師を藤原和彦(61回)に依頼。演題「イスラム教と口寄せ」。平成19年7月1日は140名の出席。島地勝彦(59回、集英社)の講演、「わが編集者人生」。平成20年の母校創立110周年に向けた取り組みを確認した。



平成20年6月15日総会は139名の出席。前日、岩手・宮城内陸地震発生。来賓の本部同窓会会長、山田市雄母校校長、横山本部同窓会事務局局長、講師の大島晃一(70回)が、無事出席してくれた。講演は「一関藩の学問風土」。総会場で地震見舞いのカンパが提案され、後日一関市役所に20万円を寄付。同年11月8日の母校創立110周年記念式典にも本会役員等が出席。

平成21年は6月28日総会。出席102名。8月23日のミュージカル平泉「夕焼けの向こうに」池袋の豊島公会堂での公演関係者も出席。本会も「一関ふるさと会」と共に、東京公演実行委員会(代表、久保田武光本会顧問)を中心に支援。平成22年総会は6月13日、101名で開催。



平成23年6月14日、128名出席で総会。役員改選で、清野幹事長が副会長兼任。平野恵子(61回)が副会長に就任が承認された。この年、会員の意見交換の場としてホームページを開設。平成23

平成26年度在京関中一高会 総会・講演会

第1部 総会



伊藤会長挨拶



佐藤同窓会長挨拶



母校坂本校長挨拶

第2部 講演会

「躍動するアフリカと共に一日本のこれからを担う若者に期待」

講師：加藤 基 氏 (64回・昭40)



第3部 懇親会

平成26年6月15日 ホテルベルクラシック東京



同期会ニュース

東京寿久会 (49回・昭25)：最も活潑な同期会の一つ。東京、一関、盛岡が、毎月19日に集まる。機関誌も、今年の元日号で第32号。東京八重洲の「蕎麦処・松月庵」が会場。会員は、年齢84歳以上で、日本の平均余命を超えています。

東京二六会 (50回・昭26・一関高校東校舎)：昨年11月17日、中野サン・プラザで、はたち会(一関高校西校舎、昭和26年卒)と合同で懇親会。参加は一関からも含め二六会16名、はたち会9名総勢25名。歓談のあと、祝舞、喜多流「羽衣」鑑賞。校歌斉唱、青春時代を満喫、再会を約して散会。(久保田武光)



二九会 (53回・昭29)：27年春の二九会の集い、5月11日～12日、日光東照宮の散策と塩原温泉にて実施された。傘寿を迎えての有志44名(女性13名)が各地から参集。元気なうちは同窓の仲間が何とはなしに集まり、語り、回顧にひたるも知新の気概を持つことで、老い行く人生を楽しくしてくれる。そんな思いで参集した気の置けない仲間が鄙の里の温泉にひたり、近況の出来事を肴に一献杯を傾けた一夜であった。(佐々木)

東京三四会(58回・昭34)：昨年10月20日、一関・渓泉閣で「三四会」。喜寿を待てないと卒業55周年を祝う。東京三四会から9名参加、総勢54名(女性16名)。歌、詩吟、日本舞踊あり、二次会は、カラオケ。翌日は、有志で、一関博物館から母校訪問。駅前で昼食、東京組は新幹線で帰京。今年2月16日は、同期の清野翼が、上野の森美術館の第20回「日本の美術展」に俳画出品。これを肴にと集まった三四会10名がアメヨコで、ミニ同期会。4月15日、台湾から帰国の小野寺芙美子(一関)を囲んで新宿で10名でまたまたミニ同期会。(清野)

会員トピックス

伊藤孝雄 (54回・昭30)：劇団「民芸」俳優。今年10月20日～11月1日、紀伊国屋サザンシアターで吉永仁郎作「大正の肖像画」出演予定。例年、54回卒「伊孝会」も開催予定。

菅野照夫 (54回・昭30年卒)：号雲誓、書道家・墨林書道院。本年3月、銀座鳩居堂画廊で「安らぎとふれあいの書展」出品。8月2日から9日まで上野東京都美術館で「墨林書院展」本会会員の観賞者が訪れる。

高橋彬 (さかり) (55回・昭31)：著述業。著書「贖罪の歴史時代」(平成24年)、「痛恨の歴史時代」(平成19年)(共に文芸社刊)。東日本大震災と福島原発事故を戦後日本の体制を通して論じた著書。一読を薦めます。

千葉忠夫 (58回・昭34)：デンマーク在住/NPO法人日本・デンマーク生活研究所理事長。毎年来日しているが、今年5月16日は、今年度総会で来日。9月25日-27日は、千葉市で第6回研修会予定。HP <http://www.djsli.com>参照。

佐藤敏郎 (65回・昭41)：(クボタ退職)昨年10月13日開催の「一関ふるさと会」(明治三陸大津波時の支援活動を基に結成、昨年118回)で新会長就任。同期、吉義彦、浅井新太郎、山崎

精悦に、木村武(61回・昭37)も新役員に。今年のふるさと会は10月12日、中野サンプラザで開催予定。

畠山知禎 (76回・昭52年卒)：岩手県庁。今年4月の異動で、岩手県東京事務所所長に就任。米国派遣を経験した県庁きっての国際派職員。東京事務所は「いわて銀河プラザ」2階。

宇田川 (佐藤恵利) (86回・昭62)：ソプラノ歌手、藤原歌劇団。本会の総会でいつも美声を聞かせてくれる恵利さんのソプラノリサイタルが、今年3月22日三軒茶屋のサロン・テッセラで開催。藤原歌劇団の先輩バリトンの牧野正人氏も加わって、歌劇の名曲、日本の春の歌で魅了。観客は本会会員が多かった。今年の本会総会の当日は一関文化センターでリサイタル。

なかだえり (中田江利) (92回・平5)：イラストレーター。汐文社から出版の絵本「奇跡の一本松-大津波をのりこえて」の要約版が東京書籍の道徳の小学5年向けの副読本に掲載が決定。「一本松は語った」と題して5ページに要約されている。昨年5月、北千住に「奈加多楼」を開業、活動拠点としている。今年4月に、なかだえり「水彩画展16」を開催

曾根遼平 (109回・平22)：東京芸大声学科卒。昨年総会で朗々と唱ってくれたテノール歌手。今年3月小平市のルネこだいら中ホールで「VOICE NUOVE 東日本大震災復興支援コンサート」に出演。本会会員も応援。今年の本会総会にも期待。

クラブOB会ニュース

母校野球部は、春休み期間中の3月24日から28日までの日程で、関東地方遠征を行いました。本年は、甲子園常連校である日大三高や早稲田実業などと4試合練習試合を行い、その後甲子園でセンバツを観戦しました。なお、試合結果は以下のとおりです。

月日	場所	対戦校	結果
3/25	日大三高G	伊香高校(滋賀県)	△9-9
3/25	日大三高G	日大三高	●0-19
3/26	早実王貞治記念G	早稲田実業	●4-29
3/26	早実王貞治記念G	北陸高校(福井県)	●1-6

25日は、高橋伸 在京OB会幹事長(80回昭56年卒)が会長 菅原克彦(58回昭34年卒)に代わって、OB会より激励金を渡した。両日とも一関からの父母、在京の野球部OB、関中一高会員等約30名が応援した。一関から大先輩の小島甲子男氏(42回昭18年卒)も駆けつけた。野球部員は27日の甲子園センバツ大会観戦に向けて出発しました。

昨年秋の県大会終了後、母校野球部の監督が八重樫徹氏(4月栗石

高校転出)に代わって部長の伊藤崇氏が就任し、指揮を執ることになりました。伊藤崇監督は、水沢高校OBで、前任の浄法寺高校や盛岡商業などで監督として采配を振るった経験もあります。伊藤監督は、選手の体力強化、意識改革を当面の課題として挙げており、OB会に対しては、生徒の身体へのケアへの対応が可能なOBの派遣、ノッカーの派遣の要請をうけています。

伊藤崇監督からの要請を受け、OBで栗原市在住の理学療法士菅原啓氏(104回・平17)を2月から派遣し、選手の身体ケアについてサポートを行っていただいております。菅原氏の派遣については、原則毎週月曜日にグラウンドに足を運んでいただき、セルフケア(ストレッチやマッサージ等)の指導、野球を行う上で不足している部位やさらに強化したい部分のトレーニング方法の揭示や実施指導、けがをした部位への負担軽減や再発予防を目的としたテーピングの実施と指導、痛みや障害の原因が動作(フォーム)にある場合の負担が軽減できるような解決方法の揭示、強い体を作るための食事摂取方法や必要な栄養素の揭示など、トレーナーとして活動を行っていただいております。

在京一関一高硬式野球部OB会幹事長 高橋伸 (80回・昭56)

事務局便り

●結成60周年記念号

本会結成60周年記念号をお届けいたします。母校一関一高同窓会事務局長・横山泉先生他、本会の皆さんにお世話になりました。御礼申し上げます。

●在京関中一高会のホームページは利用者のニュース提供を歓迎します。同窓生の活躍を人生の支えとしていきたいものです。

<http://www.ichinoseki-1.com/>

【岩手県人連合会ニュース】

平成27年度「岩手県人の集い」(第41回)は、6月7日(日)10時受付。日暮里・ホテルラングウッド。

参加費 一人 8,000円(家族は2名で 15,000円。参加希望者は事務局まで。

当日のアトラクションには、「岩泉町・中野七頭舞」他を予定。

連合会ホームページ参照。<http://www.rengokai-iwate.jp>

(幹事長 清野 翼)